

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-A-11		更新日	2025/1/31
サイト名		地殻変動と島根半島形成で誕生した奇跡の巨石 たていわ きよせき ～立石の巨石			
基本情報	区分	☐ 有形 ☐ 無形 ☒ その他			
	所在地	出雲市坂浦町立石			
	指定別				
	種別				
	指定／登録年月日				
	管理団体／モニタリング				
	周辺施設／アクセス	☐ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☒ 駐車場(道路脇に3台程度) 山陰道 宍道ICから約20km、約35分。 一畑電鉄 雲州平田駅から平田生活バスにて坂浦線、約30分 佐香コミュニティセンター前下車、徒歩約25分、距離約1.5km。			
留意点	令和4年度にジオサイトから文化サイトに見直した。				
サイトの解説	歴史・文化	江戸時代に書かれた『雲陽誌』(1717(享保2)年)の榎縫郡(たてぬいぐん)の坂浦の項目に「山神 岩の高さ四丈、周二十間、三に分てあり、いかなる故にや土人、御所の立岩といひてまつるなり」と記されている。周辺には巨岩などはなにもなく、この巨石だけが屹立(きつりつ)していて、照葉樹林などに覆われ荘厳な雰囲気を出している。自然界にある巨石への畏怖(いふ)と崇敬から発生したと考えられる。『雲陽誌』の書かれた江戸時代中期頃は、この巨石を信仰対象として信仰されていたと考えられる。中心部にある巨石で最も高いもの約12m、最も広いもの横巾約26mある。現在は、坂浦町庄部地区の住民によって9月に祭礼神事が行われている。			
	地形・地質、生物・生態等	島根半島の基本的な地質構造は、今から1500万年～約2000万年前に西南日本弧が大陸から分離し、日本海が形成された地殻変動と密接に関係している。地殻変動は、南北方向の圧縮運動であり、東西方向に延びた著しい変形と変異を伴っていた。そのため、研究者は島根半島を宍道褶曲帯と名付けている。立石神社付近には二つの成因の異なる泥岩(または頁岩)と流紋岩が分布している。両者は岩石強度が異なり、風化に強い流紋岩に対して泥岩は弱い。このような岩石が上述の地殻変動を受け、さらに風化作用を受けると岩塊となった流紋岩に対して、泥岩は土壌となり岩塊が一層際立つ格好となる。立石神社の巨石もこのような要因で形成されたものとみられる。			
写真・図等					
		立石の巨石			
参考文献					